

ワンズケア®トイレ処理袋 シリーズ お客様の voice

当商品をご利用いただいているお客様に、お話を伺いました。



voice 1

セットも処理も簡単！
病棟に導入したことで
職員の笑顔も増えました

公益財団法人慈恵会
慈圭病院
病棟看護師長
西本 裕美さん



point

洗浄作業にかかる時間が
30分→5分に！

におい残りの
不快感も軽減◎

災害時用の
病院備蓄にもピッタリ

point

使用方法が簡便で
感染症対策に最適！

感染ゴミも
まとめて廃棄

常備しておくことで
緊急時も安心

voice 2

感染症対策で大活躍！
緊急時のために今後も
常備しておきたい。

介護老人保健施設
能見台パトリア
介護福祉士
井上 香菜さん



Q 「ワンズケア トイレ処理袋」 導入の経緯は？

2022年1月、私が看護師長を務めていた病棟で初めて、新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生しました。しかし病棟のトイレ数は決して多くなく、陽性患者がそれぞれのタイミングでトイレに行くのは困難な状況でした。そこでポータブルトイレを使用することになりました。

計画時、ポータブルトイレは職員が手動で洗浄を行う予定でしたが、防護服を着たまま行う洗浄作業はかなりの重労働でした。なおかつ、感染リスクと隣り合わせという精神的な不安感から、職員たちが疲弊していくのを目の当たりにしていたんです。

そんなときに職員の一部が「ワンズケア トイレ処理袋」をすすめてくれました。自宅の介護でたままこの商品を受用していたのだそうです。実際にサンプルを使わせてもらおうと、作業がしやすくて驚きました。

ほかの職員から「今後も使用したい」「導入してほしい」など多くの声が挙がり、院長と総務課にかけあうと、すぐに注文してもらえようになりました。トップ層のスピーディな導入判断は本当にありがたかったです。

Q 導入前には どんな苦労がありましたか？

当院は精神科という側面から、洗浄ス

ペースも含め、常時鍵のかかっている場所が多数あります。つまり、一か所ずつ鍵を操作しなければならないという手間がありました。各病室からポータブルトイレを持って出て、洗浄スペースを解錠してバケツを洗浄、そして再び施錠して戻す。これだけの作業を完了するのに、1回につき5分以上、毎日約10名分がかかっていました。

それだけ工数がかかるとほかのケアに費やす時間が圧迫されてしまうことなどから、どうしてもポータブルトイレ洗浄の回数を減らさざるを得ません。患者さんに迷惑はかけられないし、これ以上職員の負担も増やせない。なんとかしたいと思っていました。

Q 実際の活用方法と、 メリットを教えてください。

トイレ処理袋を朝一でセットして、だいたい日中に1〜2回、夜に1回交換しています。これまでバケツの洗浄や処理には1人分1日に30分強の時間がかかっていましたが、トイレ処理袋はポータブルトイレにかぶせるだけで使用でき、使用後は結んで捨てるだけ。1人分1日に5分程度で処理が終わり、かなりの労力削減を実感していました。

一番嬉しかった点は、においの問題が解消されたことです。これまでは使用後すぐに洗浄できないにおいがありましたが、

ポータブルトイレ自体を清潔に使えるようになったことにおいなくなり、患者さんの不快感軽減にもつながったと思います。

また袋自体に色がついている点や、使い方がわかりやすいというのも、病棟で活用するのに大変ありがたいポイントでしたね。使ってみてとても便利だったので、災害時に備えてトイレ処理袋の防災タイプを病院に備蓄する方向で話を進めています。ここ最近には特に豪雨災害などによるライフラインの混乱が懸念されていますが、病院として備えておくことでいざというときに役立つはずですよ。

そして今後もいつか、医療体制に混乱が生じるレベルの特殊事態が起こるかもしれません。現場の第一線で活躍する職員が心理的負担を軽減するためにも、「ワンズケア トイレ処理袋」はこれからも活用していきたいと思っています。



Q 「ワンズケア トイレ処理袋」 導入の経緯は？

新型コロナウイルス感染症が全国的に広がり始め、当施設でも感染対策に力を入れていくことになりました。当施設では以前から、入居者様の状態に合わせて主に夜間にポータブルトイレを使用していました。排泄処理には、家庭用の45リットルのゴミ袋にオムツの取り替え用シートを1つずつセットした、職員の手作りによる処理袋を使用していました。しかし、手作りの処理袋を準備するには1つ当たり10分以上の時間がかかります。クラスターが発生した場合には、夜間だけでなく日中の活動時間帯にもポータブルトイレを準備する作業に職員のリソースが割かれてしまうという問題が考えられました。そこで、感染対策として、より手軽に使用できる「ワンズケア トイレ処理袋」を導入することになりました。

Q 実際の活用事例を 教えてください。

通常は手作りの処理袋を使用していますが、クラスターが発生した際は、トイレ処理袋に切り替えました。当施設では感染者

が発生すると、感染されたご利用者は個室隔離（レッドゾーン）となりポータブルトイレを使用していますが、感染拡大を防ぐために、その他の同フロアのご利用者についても、ご自身の居室において一定期間の隔離対応に協力をお願いしています。その結果、全入居者の60名以上がポータブルトイレを使用することになりました。

当時は、使用の度に処理袋を交換し、多くの処理袋が必要になりました。しかし、トイレ処理袋を導入したことで、セッティング時間が数十秒に短縮でき、通常かかるはずの時間と手間を大幅に削減できました。

現在、施設ではクラスターが発生していないため、基本的に共用のトイレを使用いただいています。必要にご利用者にはポータブルトイレを用意することもあります。その際には手作りの処理袋を使用しています。感染対策に追われていた当時は振り返ると、トイレ処理袋には大変助けられたと感じています。

実際の使用時には、口腔ケアに使った水や残ったお茶なども手作りの処理袋に入れた、感染ゴミとしてまとめて廃棄していました。洗い場などで感染リスクのあるもの

を処理するよりも、居室の中で処理する方が感染拡大は防げるため、このような活用方法も有効だと考えています。

Q 使用時に感じたメリットとデメリット があれば教えてください。

最大のメリットは、その簡便さだと思います。トイレ処理袋はポータブルトイレに被せるだけで簡単に使用できるので非常に便利でした。使用後は袋を紐で結んで捨てるだけでトータルの作業時間は5分程度です。時間と労力を大幅に削減できました。また、手早く処理ができるのでにおいの問題が最小限に食い止められたと感じます。においを閉じ込めるだけでなく、丈夫な袋で破れた心配がなかった点も嬉しいポイントでした。

デメリットとして挙げられる点は、袋のガサガサ音が比較的大きいことです。夜間にトイレ処理袋を交換する際に、その音で寝ていたご利用者が起きてしまうことがありました。音が出にくい素材であれば、使い勝手がさらに良くなると思います。あとは、コスト面でしょうか。手作りの処理袋よりもコストがかかるため、トイレ処理袋を常用することが困難です。しかし、感染症対策時や災害時の使用には非常に有用だと考えますので、常に在庫を確保して、緊急時には「ワンズケア トイレ処理袋」を活用していきたいと考えています。